

『バージン・ブルース』大池容子

登場人物

藤木博貴

赤石修二

彩子／闇原有太郎

式場係

バージン・ブルース

作・大池容子

舞台は、結婚式場の控え室。
下手奥に、白いテーブルクロスが掛けられた丸テーブル、その上に灰皿と片方の白い手袋。
丸テーブルの傍に二脚の椅子。
少し離れたところにも一脚の椅子。その上に、鞆が置いてある。白いネクタイが鞆の下敷きになっている。
上手に大きなクローゼット。
クローゼットの中にはいくつもの服が掛けられている。モーニングスーツなどの結婚式で着る衣装の他、学ランなども掛けられている。
下手側に入り口。客席の中央に花道。
物語の進行と共に、式場係に扮した制作（劇場内の誘導係）や、俳優によって舞台装置の配置が変えられ、舞台は様々な場所に変化する。

結婚式場・控え室（現在）

開演。

藤木博貴が現れる。六十〜七十代ぐらいの男。下は、礼服用の黒のズボンを履いているが、上はチェックのシャツなど、私服のまま。

クローゼットの中の服をかき分けて、なにかを探している様子。

そこへ、モーニングスーツを着た赤石修二が入って来る。六十〜七十代ぐらいの男。

赤石 おい。……まだかよ？

藤木 ……ん？

赤石 いや、もう始まるぞ。

藤木 うん、わかっているんだけどね……

赤石 なに。

藤木 ……ネクタイ知らない？

赤石 ……え？ 無いの？

藤木 ……うん……

赤石 無いことないでしょ、探せよ。ちゃんと、

藤木 探した、探した。さっきから探してるよ。

赤石 もっかい。思い出してみ。最初っから。

藤木 ……最初に、こう……こっから出しただろ……。それで、ここにまとめて……。それからこっちに行つて……。…（鞆の下敷きになったネクタイを見つけて）あった。ありました。

赤石 ……あるじゃない。すぐあったよ。

藤木 ありましたありました。ありましたよー。

赤石 わかったから。急げ。ハリアップ。

藤木 わかっているって。

赤石 なんておれが逐一お前に指示しなきゃいけないの？

藤木 はいはい、ごめんごめん。
赤石 はー、もう……（丸テーブルの傍の椅子に座って、うつむく）

藤木 ……なに。緊張してるの？

赤石 してませんよ。寝不足なの、

藤木 それ、緊張で寝れなかったんじゃないの？

赤石 違う！ お前が昨日、変なイビキかいてたせいで、一睡もできなかったの、こっちは。

藤木 えー？ うそだあ、

赤石 ほんとですう、

藤木 でも、おれだって、ほとんど眠れなかったよ？ 今、ちよつと横になりたいぐらいだもん。……休憩させてくれないかなあ。……ちよつと小腹も減ってるんだよね。

赤石 なんかに軽く食べられるといいんだけど。食べ物とか置いてないのかね、こつち控え室って。普通、置いてあるんじゃないのかねえ？

赤石 ちよつともう、その話いいから。着替えて、とつとと。

藤木 ……はいはい。……あら？ あらあららら。

赤石 なに、なに、

藤木 ああ……どこ置いたっけな。

赤石 なにを。

藤木 手袋、

赤石 （丸テーブルの上の手袋を手に取り）ここ！ あるでしょ！ 見えてるでしょ！

藤木 いやいや、それは分かってるんだけど。もう一個。

赤石 ……なんで別にした？ なんで分けたの？ ふたつ一緒になってたでしょ？

藤木 なんて言われてもなあ……

赤石 ……もう！（立ち上がって手袋を探し始める）

藤木 （再び着替えを始めるが）……ちよつと、こつち見ないでね。

赤石 見ねえよ！

藤木、小学生の女子がプールの授業で着けるような、体に巻きつけるタイプのタオル（キティちゃんなどの柄）を鞆から取り出して、それを体に巻いてから服を脱ぐ。

赤石 ……なに、それ？

藤木 これね、彩子が小学校の時使ってたやつ。水泳で。

赤石 そうゆうことじゃなくて。着ける必要があるかって話。

藤木 だって……見られちゃうじゃない？

赤石 見ねえつつってるだろ。

藤木 いやいや、誰か入ってきちゃうとき、アレでしょ？

赤石 （舌打ち）

赤石 ……無いぞ、手袋、

藤木 無いことないでしょう。

赤石 ひとに探させといて、その言い草は無いんじゃない？

藤木 でもこれ（タオル）やっぱ小っちゃいねえ。小っちゃかったんだなあ……あいつ。

赤石 大きくなったなあ……。

藤木 気持ち悪いな。しみじみすんな、そんなモンで。

赤石 ちよっと泣けてきちゃったよ、おれ。

藤木 早いよ！ あとにしてよ。

赤石 まさかなあ、こんな日が来るなんてなあ……。

藤木 早いつて。せめてスピーチで泣け。

赤石 ……ああ……スピーチかあ。……あるのかな、そうゆうの？

藤木 まあ……あるんじゃないの、やっぱり。

赤石 お父さん、お母さん、今まで育ててくれてありがとう、ってやつか。

藤木 うちは、お父さん、お父さん、だけどな。

赤石 だけどやっぱり、プロだよ、こうゆう……：式場の人ってゆうのは。普通おかし

じやない？ うちみたいなのって。でも、顔色ひとつ変えないね、彼らは。まあ、

複雑な事情のところもあるだろうからなあ、慣れてるんだな。

赤石 ねえ。その無駄話やめて、とっとと着替えてくれない？

藤木 はいはい、

ウエディングドレスを着て、スマートフォンとタバコの入ったポーチを持った彩子が入ってくる。二十〜三十代ぐらいに見える女。

藤木 おう、

赤石 お前、なにウロウロしてんだよ。

彩子 灰皿、あっち無かったんだもん、

彩子、ポーチからタバコを取り出し火をつけようとする。

赤石 それ着たまま吸うなよ！

彩子 えだつて脱げないよ？

赤石 我慢しろ、タバコぐらい、

彩子 えー。

藤木 いいじゃないの、一服ぐらいさせてやっても、

赤石 お前は、黙ってさっさと着替える、

藤木 ……なんか、きついよなあ、今日……。

彩子 （藤木のタオルを見て）……なにそれ、

藤木 これか？ 懐かしいだろ？

彩子 え。キモい……。

藤木 あっそ、

赤石 おい。グズグズしてたら、もうお前抜きで始めるからな？

藤木 え？

赤石 結婚式。お前抜きでやってやるからな。

藤木 いやいやいや……おれがいないと始まらないでしょう。(彩子に)なあ？

彩子 あー。

赤石 おれがお前の分も、ちゃんどバージンロード歩いてやるから。(彩子に)なあ？
彩子 いもんな、それで。

彩子 そーだねえ。

藤木 ダメダメ！ お前はねえ、風情がないよ、父親として。

赤石 ……なによ風情って。

藤木 なーんか、かっこつけちゃってさ。目に浮かぶよ、お前がバージンロード歩く姿が。こー、一見、サマになってるんだけど、情緒とゆうか風情が無いんだよなあ。その点、おれは……渋いぞー。哀愁漂うぞー。

藤木、そう言いながらキティちゃんのタオルを取る。

上半身が露わになる。その体には、形の良い、大きなオッパイがある。

赤石、振り向いて、

赤石 おれだってなあ……！(藤木の露わになった胸を見て)……なんで取った！ それ！
藤木 え？

赤石 なんで取った、キティちゃん！

藤木 だって彩子がキモいって言うから……

赤石 ビックリするだろ！ 取るときは取るって言えよ！

藤木 そんな細かいことまで報告しなきゃいけないの……？(椅子に座る)

赤石 座るな、座るな！ ああもう、時間が無いんだよ！

藤木 疲れちゃったんだよ。やっぱり寝てないからかなあ。

赤石 寝てたっつってんだろ！ ガアガア、ガアガア。やかましくて眠れなかったんだぞ！

彩子 うるさい、うるさい、

藤木 (彩子に)なあ？ 今日うるさいよなあ、お父さん。

赤石 ……もう、さっさと隠せ。それ。

藤木 はいはい……

赤石 なんのために着けたんだよ……

彩子 ……(タバコの煙を吐き出す)

赤石 ……お前も。なんか……もうちょっと、花嫁らしくできないの？ 一生に一度のこ
となんだぞ？

彩子 え？

赤石 もうちょっとさあ、物思いにふけてみるだとか、あるでしょう？ なにをお前……

彩子 ……平然と……

赤石 いいじゃん別に。色々思い出してるよ？ 今、

赤石 スマホいじりながら？

彩子 いじりながらも別に思い出したりできるから。

赤石 いや、だからね、そうゆうことじゃなくて。姿勢の話をしてるの、今は。

彩子 ……は？

赤石 見たことあるか？ 花嫁がさあ、タバコ吸って、それ……なんだ？ ラインか？ ラインとかチェックしながらさあ。なんかこー、精気のない顔してるとこ。見たことあるか？

彩子 こーゆうもんだって。

赤石 普通、普通な？ こうゆう時の花嫁は、言葉少なにしてるもんなんだよ。特に、父親とはゴチャゴチャ喋らないもんなんだ。控え室で、じっと座って、鏡とか見てるもんなんだよ。そーゆうのが物思いにふける、ってことなんだ。わかる？

彩子 知らないよ。てか、実物見たことあんの？

赤石 見たことあるとかないとか、そうゆうことを言ってるんじゃないだよ。

彩子 さっきお父さんも、見たことあるかって言ってたじゃん。

赤石 ほんっにお前、可愛くないねえ……そんなんだからお前は、いつまでも、

彩子 (藤木を見て) あれ？ ……お父さん？

座ったままの藤木、動かない。

赤石 ……なにしてんだよ。着替えるよ。

赤石 ……おい。……寝てんのか？ (藤木の体を揺すって) ……おい。……おい！？

藤木 ……(目を覚まして) ああ……大声出すなよ。

赤石 ……びっくりしたあ。死んだかと思ったよ。

藤木 なんでよ。死なないよ。

赤石 急に動かなくなるなよ……

彩子 なに、ちよっと休む？

藤木 いや、いい、いい、

彩子 そ？

藤木 ふふ。……お前、やっぱり、こーやって見るとそっくりだなあ。

彩子 え？

藤木 いや、笑っちゃうけど……そっくりなんだよねえ、あいつに。あいつがウエディングドレス着てるみたいで、なんか……おかしいよな……(と、言いながら椅子から崩れ落ちていく)

赤石 ……あれ？ ……どした？ おい。……おい。……ちよっと……え？ 待ってる！
すぐ戻ってくるから！

赤石、急いで誰かを呼びに去っていく。

その場に立ち尽くしている彩子。

音楽。

式場係に扮した制作が現れ、客席にアナウンスをする。

式場係

(客席に) 本日はご多用の中、ご参会くださいまして誠にありがとうございます。携帯電話、時計のアラーム等、音の鳴る電子機器は予め電源からお切りください。すよう、ご協力お願い申し上げます。……ありがとうございます。それでは皆様、大変お待たせいたしました。間もなくチャペル後方より、新婦・彩子さんがお父様の赤石修二さまと、……お父様の藤木博貴さま、お二人のエスコートで入場いたします。

彩子、そのアナウンスを聞いて、慌てて客席の花道を通って退場する。

式場係

(彩子が出て行ったのを見送って) ……入場いたします! ……(彩子が現れないので) ……入場されないということで、ご準備が整うまで、お父様・藤木博貴さまの走馬灯を、ダイジェストでご覧いただきます。

藤木、目を覚まして、自分の走馬灯を眺めるように、舞台上を見回している。

式場係

(藤木に) どうぞ、

式場係、藤木をクローゼットの前に連れて行き、学ランを着せて学帽をかぶせる。式場係も学帽をかぶって、藤木に一礼する。

式場係

(突然) 藤木イ!

式場係、いじめっ子に扮して藤木を殴ったり蹴ったりする。藤木、その場に倒れる。

式場係

……このオッパイ野郎!

と、吐き捨てて式場係いなくなる。以下、藤木の走馬灯。

中学校・裏庭(過去)

藤木、うずくまっている。

周りを警戒しながら、学ラン姿の赤石が顔を出す。

赤石

……おい。大丈夫か、

藤木

ああ、うん……なんとか……

赤石

ちよっと、見せてみる、

藤木

いいよ、平気だって、

赤石　いいから。見せてみる。

赤石、藤木の服を脱がせて傷の具合を見てやる。

赤石　しっかし、毎日毎日……しっこいねえ、あいつら。
藤木　いいんだ、もう慣れたから……
赤石　慣れたつつつてもお前……

赤石が藤木の服を脱がせると、形の良いオッパイが現れる。
赤石、我慢できずに藤木のオッパイを揉みしだく。

藤木　ああ修くん、修くん！
赤石　悪い。あるとつい、な……
藤木　もう何回も見てるでしょ？　我慢してよ。
赤石　悪い悪い。本能だよ。目の前にあつたから。
藤木　最近張ってきて痛いんだからさあ……
赤石　（藤木の傷を見て）うわっ。ひどいな、これ……
藤木　そう……？

赤石　これ、あれだろ？　さっき、あの、いけすかねえ野郎が、こう、倒れたお前のココロんとこにバーン！　って蹴り食らわせたやつでしょ？　おれアバラ、二、三本いったかと思つたよ。

藤木　見てたんなら助けてよ。
赤石　藤木、それじゃ意味ないんだって。言ってるでしょ？　お前の手でやり返すってゆうのが大事だつて。おれが代わりにあいつらやつつけたつて、復讐にならないの。わかる？

藤木　どうすりゃいいのさ……
赤石　だから……例えばあいつらの席に、画鋏をこっそり置いておくだとか……
藤木　やだよ、そんなみみっちいの、

赤石　だつたら自分で考える。……おれ、もつやだよ。ずっとお前の面倒ばつか見てきて。……ガキの頃のお前が、あんなじゃなければね、おれだつてお前にここまでしてやらなかったよ。あんな高っかい声して、フリッフリのスカーツ履いて。修くん修くんなんて言うからさ。誰だつて、か弱い女の子だと思つたよ。
藤木　しょうがないでしょ、女の子欲しかったつて親が言うから、
赤石　反抗するよ、女のカッコなんかしたくないつて。
藤木　……まんざらでもなかったんだ、おれだつて。……だつて、おれ……可愛かつたでしょう？　……可愛かつたんだよ、おれは！